



もくぞうたくはたちぢひめのみこと ざぞう
木造栲幡千々姫命坐像



もくぞうあめのおしほみのみことざぞう
木造天忍穗耳命坐像

平成 28 年度市民歴史講座

日本
最多

泉穴師神社の神像群

～ 83 軀の " 再発見 " ～

申込不要
受講料無料

平成28年7月16日(土)

午前 10 時～ 11 時 30 分
受付: 午前 9 時 30 分～

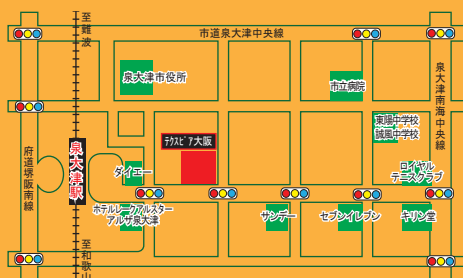
●お問合せ
泉大津市教育委員会事務局生涯学習課
文化財係
〒595-8686 泉大津市東雲町 9-12
☎0725-33-1131(内 2325・2320)

講師

元大阪大谷大学教授

吉原 忠雄 氏

テクスピア大阪 3 階 301 会議室にて



〒595-0025 大阪府泉大津市旭町 22-45
テクスピア大阪
南海電鉄「なんば」駅より南海線急行で 20 分
「泉大津」駅下車 東口徒歩 3 分

平成 28 年 3 月 11 日、泉穴師神社所蔵の神像 80 軀が、国指定重要文化財として文化庁文化審議会から答申されました。80 軀という神像数は、京都市上京区の大將軍八神社に並んで、1 神社で所蔵する重文神像数としては日本最多となります。府指定文化財の 3 軀を加えた 83 軀の神像の美と歴史に迫ります。

主催 泉大津市教育委員会／泉大津市文化財保護委員会
協力 宗教法人泉穴師神社

●解説

重要文化財の名称は「木造神像」で、数量は 80 躯です。構造は檜材の一木造で像高は 8.8cm ～ 58.1cm です。神像のほとんどが 12 ～ 13 世紀（平安時代後期から鎌倉時代）につくられたもので、この時期の神像がこれほどまとまって残されている例は極めて希少です。男神像 42 躯はすべて坐像で、ほとんどが巾子冠、袍を著け、胸前で拱手します。女神像 30 躯も全て坐像で、ほとんどが垂髪、大袖衣を著け、胸前で拱手します。

神像の多くは、赤や緑を主体とした彩色文様がよく残り、面部に漆箔が施された像が 13 躯（既指定 1 躯含む）あります。金色身の神像は、他に大將軍八神社の神像群（重要文化財）中の一躯など数例が知られる程度で、本神像群の顕著な特徴といえます。

また、東京文化財研究所における X 線 CT 撮影で、同木から男女 1 対あるいは 3 躯で 1 組の像として造られたと思われる組み合わせが、複数みつかっています。

今回追加指定される 72 躯以外の 8 躯は、明治 32（1899）年に古社寺保存法に基づく旧国宝に指定され、昭和 25（1950）年に文化財保護法に基づく重要文化財に指定されています。追加指定された 72 躯については、昭和 45（1970）年に「泉穴師神社 木造男女神像群」の名称で大阪府指定有形文化財に指定された 75 躯に含まれるものです。神像が 80 躯まとまって重要文化財に指定されるのは、当社以外では大將軍八神社（京都市）だけであり、国内最多です。



●泉穴師神社

所在地：泉大津市豊中町 1 丁目

和泉国五社の第二社で、白鳳年間の創建とされ、延喜式内社に列する。祭神は、天忍穗耳命・栲幡千千姫命である。特に栲幡千千姫命は織物の神であるため、織物産業の盛んな泉大津地域の人々に篤く信仰されている。本殿及び摂社の 3 棟は、重要文化財に指定されている。



同木から刻出された男女 1 対像